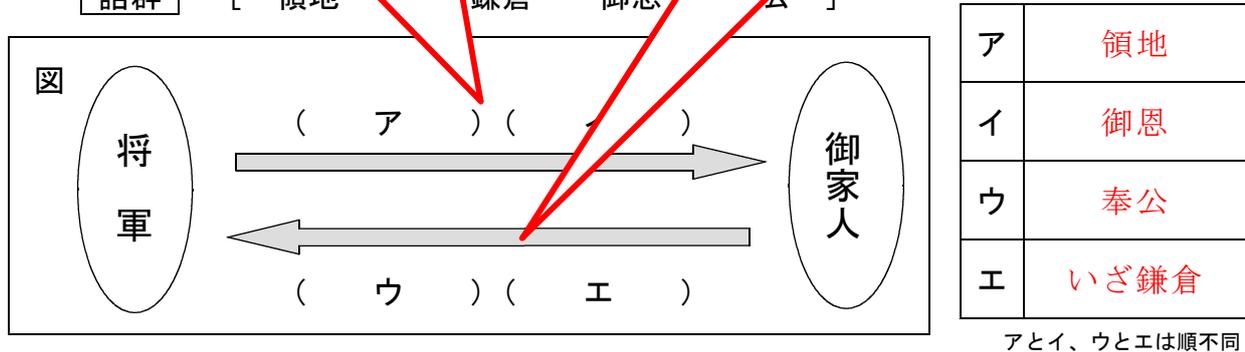


鎌倉時代の特色（中世前期）	()組	氏
	()番	名

由美子さんたちの学級では、「中世前期の日本」の学習を振り返るために、中世前期がどんな時代であったかについて、後のA～Dの四つのカードにまとめました。

カードA 将軍は、幕府に仕える武士の土地を保障したり、手柄てがらに応じて新しい土地いくさを与えたりした。また、その武士は御家人として将軍への忠誠を誓い、戦の時には一族を引き連れて出陣する労役ろうえきを行なった。この時代は、このような主従関係が社会の基盤となった時代である。

- (1) 将軍は、「御恩」として御家人の領地を保護したり、新しい領地を与えたりしました。御家人は、将軍に忠誠を誓って奉公をし、戦乱の際には鎌倉幕府のためにはたりました。



カードB 頼朝ときまさの死後、北条氏が執権の地位につき、頼朝の妻の政子とその父である時政さねともに幕府の実権がうつっていった。そんな中、第3代将軍源実朝が殺害されると、この幕府の混乱に乗じて、朝廷の勢力の回復を図っていた後鳥羽上皇が乱を起こした。

(2) 由美さんは、カードBの ——— 部の乱のときに北条政子が出した追討命令ついでうを要約した次の資料1を作成しました。この資料1について、①と②の各問いに答えなさい。

① この乱の名前を答えなさい。

承久の乱

② 右の資料1の には、ある人物の名前が入ります。この人物名を漢字2文字で書きなさい。

頼 朝

1221年、後鳥羽上皇が幕府に対して兵を挙げると、頼朝の妻政子は、鎌倉の武士たちに、頼朝の御恩を説いて結束を訴えました。

資料1 北条政子のうったえ

みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。

公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職かんしよくといい、土地といい、その恩は山より高く、海より深いものでした。みながそれに報むくいたいという志はきっと浅くないはずです。名誉めいよを大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣しゅつじんをうち取り、幕府を守りなさい。

(「吾妻鏡」から作成)

カードC

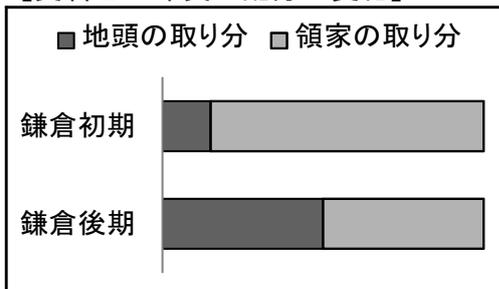
後鳥羽上皇が起こした乱では、幕府が率いた大軍が勝利した。幕府は、上皇に味方した貴族や西日本の武士の領地を取り上げ、東国の武士をその領地の地頭として任命した。こうして、幕府の影響力は西国へも及び、支配力は全国的に広がり強まっていった。

農民は年貢を荘園や公領の領主に納めていましたが、地頭になった武士が土地や農民を勝手に支配することが多くなり、争いが起きようになりました。この争いは幕府によって裁かれ、土地の半分が地頭に与えられるようになりました。（※この線が境界線です）

命された地頭と、以前料3を作成し、この二

【資料3】 — 境界線

【資料2 年貢の配分の変化】



（「最新歴史資料集」から作成）



（「伯耆国東郷荘下地中分絵図」から作成）

- ア 東国の地頭は、与えられた土地を高い値で領家に売り始めた。
- イ 地頭の支配力が強まり、領家と土地をめぐる争いが起きた。
- ウ 戦いによって荒れた領地を、地頭と領家が共有して管理した。
- エ 地頭が六波羅探題を設けて守護を配置し、領家も監視した。

記号

イ

（※「平成25年度県立高等学校入学者選抜学力検査問題」を参考に作成）

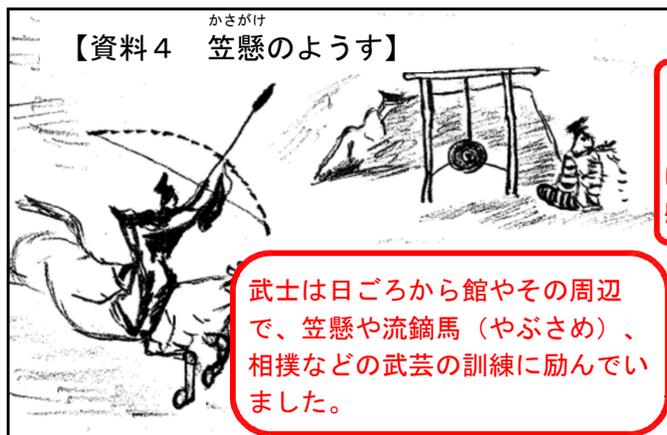
カードD

この時代（中世前期）の特色を一言で言うと、

「資料 [] から、[] 時代である。」と言える。

(4) 由美子さんは、次の資料4、5を描き、カードDにこの時代（中世前期）の特色を一言でまとめようと考えました。どのようにまとめるとよいか、次の資料4、5のいずれか一つを選び、「資料 [] から、[] 時代である」という形式で書きなさい。（※資料は4、5のいずれを選んでもよい。）

例 資料 [4] から、[武士が戦いに備えて、(笠懸などの)武芸に励んでいた] 時代である。
資料 [5] から、[(武士の世になり)素朴で力強い文化が生まれた] 時代である。



武士や民衆の力が伸びてくるとともに、この時代には、親しみがあり、力強い感じをあたえる文化が生ま

【資料5 金剛力士像】

